持続可能な調達



責任あるコーヒー豆調達と産地支援

セブン-イレブン・ジャパンは、日本国内に21,743店舗（2026年2月末時点）を展開し、セブンカフェは年間約10億杯を販売しています。こうした事業規模をふまえ、当社はコーヒー豆のサプライチェーン全体で品質を追求することに加え、環境・社会・経済の持続可能性への責任を果たすことを重要な経営課題の一つと位置づけています。

セブンカフェ コーヒー豆の調達基準を策定

セブン-イレブン・ジャパンは、セブンカフェ用コーヒー豆の責任ある調達を実現するため、独自のコーヒー豆調達基準を策定しています。

コーヒー豆調達基準は、「セブン&アイ・ホールディングス持続可能な調達原則・方針」に基づき、コーヒー豆の生産に関わる事業者に対して環境・社会・人権に関する要求事項を定め、責任あるコーヒー豆調達を推進することを目的としています。生産現場から輸出に至る上流サプライチェーンでは、特にリスクが高いとされる生産段階を重点管理対象としています。

調達基準と産地支援の二軸による責任ある調達への取組み

責任あるコーヒー豆調達と産地の発展
コーヒーの価値は生産地から始まるとの考えのもと、
独自の調達基準に基づく責任あるコーヒー豆調達と産地支援を両輪とした取り組みを推進しています

セブンカフェ コーヒー産地支援

現地との対話を通じた支援

価値創出

環境	CO_2削減、水資源保全
社会	教育・生活改善
経済	収入・生産性向上

国別事例

国	内容	効果
ブラジル	カバークロップの栽培・活用	土壌改善、CO_2削減
コロンビア	節水設備の導入	水資源保全
タンザニア	苗木の保護、乾燥設備の導入	収量・品質向上
グアテマラ	学習用品の提供など	教育・コミュニティ支援

農園 → 輸出企業 → コーヒー豆サプライヤー → セブン-イレブン → お客様

セブンカフェ コーヒー豆調達基準

調達基準に沿った責任あるコーヒー豆調達　以下の7分野に関連する個別基準への合致を求める

品質管理	人権	労働	環境	安全・安心	管理・運営	トレーサビリティ
生産、精選、保管、物流	強制労働・児童労働・差別の禁止	賃金、安全衛生	水資源・森林の保全、気候変動への対応	農薬、食品安全	法令遵守、苦情処理	取引の透明性

持続可能な調達

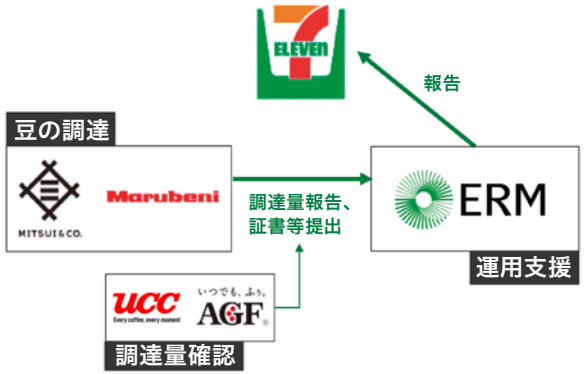
責任あるコーヒー豆調達

責任ある調達に基づくコーヒー豆とは、以下2種類を指し、一部の第三者認証制度も活用しながら、責任ある調達を推進しています。

- コーヒー豆調達基準合致豆：本基準で定める調達基準を満たす生産者が生産したコーヒー豆
- 認証豆：本基準と同等もしくは同等以上と当社が認定する第三者認証に基づき調達されたコーヒー豆

調達においては、商社からの調達量・証憑類の報告と、焙煎業者による納入量確認を通じて、基準への合致状況を確認・管理しています。また、第三者機関が調達基準の策定・改定支援や証憑類の確認を行い、運用の客観性と信頼性の向上を支援しています。

コーヒー豆調達基準の運用体制

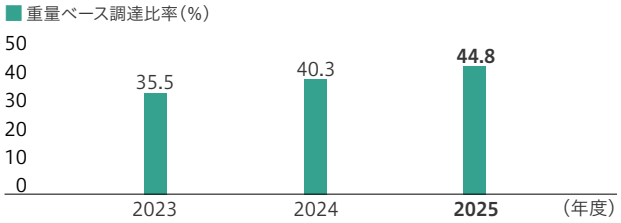


調達比率の目標を設定

セブン&アイグループの環境宣言「GREEN CHALLENGE 2050」では、サプライチェーン全体で環境負荷低減に取り組むとともに、オリジナル商品に使用する食品原材料について、持続可能性が担保された原材料の使用比率を2030年までに50%、2050年までに100%とする目標を掲げています。

この方針のもと、セブンカフェにおいても、責任ある調達に基づくコーヒー豆の調達比率を2030年までに50%以上とすることを目指しています。この目標達成に向けて、サプライヤーと連携した調達基準の浸透と、産地支援による生産現場の環境負荷低減、生産性向上、生活環境改善を一体的に推進しています。

セブンカフェ 責任ある調達に基づくコーヒー豆の調達比率



モニタリングを実施

当社は、コーヒー豆調達基準の実効性を高めるため、サプライチェーン全体でモニタリングを実施しています。輸出企業および農園責任者によるチェックリストを用いた現地確認を年1回実施するとともに、第三者機関による一部農園の外部モニタリングも毎年実施し、基準への適合状況を多面的に確認しています。これらのモニタリング結果は、生産者との対話や調達方針自体の改善に活かすなど、継続的に取り組みの高度化を図っています。

是正措置を要請

コーヒー豆調達基準には、現地の法令に加え、より高い水準の環境・社会・人権への配慮を求める項目が含まれています。そのため、基準への適合には生産活動の改善や運営体制の見直しを伴う場合があります。そこで当社は、サプライチェーン上の関係者と緊密に連携しながら継続的な改善を支援しています。また、基準への非合致が確認された場合には、サプライチェーンを通じて当事者と協議を行い、状況に応じて是正措置を要請します。

また、モニタリングや生産者との対話を通じて得られた知見に加え、業界動向や第三者認証基準の改定内容なども踏まえながら、コーヒー豆調達基準そのものの継続的な改善にも取り組んでいます。必要に応じて基準や運用方法の見直しを検討し、責任ある調達の実行性向上に努めています。

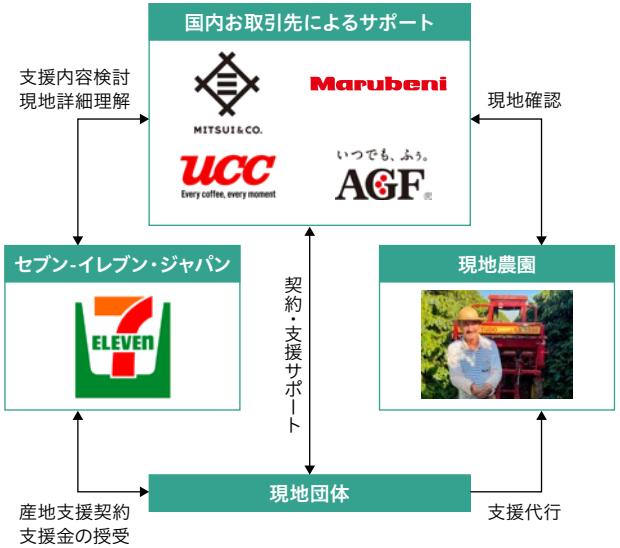
当社は、サプライチェーン上のサステナビリティ課題の解決に向けて継続的な改善に取り組んでいますが、これらの課題は単独で解決できるものではなく、生産者、サプライヤー等との協働を通じて取り組みを推進しています。

コーヒー産地との対話と支援活動

当社は、責任ある調達に基づくコーヒー豆調達の実現に向けて、生産地との対話を重視し、現地訪問やオンラインでのコミュニケーションを通じて各地域の課題を把握しています。そのうえで、生産性・品質向上による生産者の収入向上をはじめ、気候変動への対応や環境保全、教育支援など地域コミュニティの発展に取り組み、コーヒー生産の持続可能性向上と生活環境の改善を支援しています。

持続可能な調達

セブンカフェ コーヒー産地支援の全体像




ブラジルへの現地訪問（2022年）


グアテマラへの現地訪問（2022年）

■ 環境保全・気候変動対応

ブラジルでは、再生農業（リジェネラティブ・アグリカルチャー）の取り組みとして、土壌改良に役立つ植物（カバークロップ）の栽培・活用を支援しています。これによって、土壌の肥沃度向上や化学肥料使用量の削減を図ることができます。

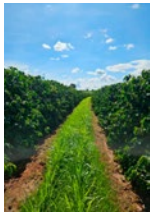
また、コロンビアでは、節水型設備（ウェットミル）の導入を支援し、水資源の保全と生産効率の向上を図っています。

ブラジルにおける支援実績

	2024年度	2025年度
農園数	6農園	19農園
カバー面積	393ha	2,040ha

コロンビアにおける支援実績

	2023年度	2024年度	2025年度
農家数	26人	26人	22人


カバークロップ


節水型設備

■ 生産性・品質向上と気候変動対応を支援

タンザニアでは、乾燥台（アフリカンベッド）の導入を通じてコーヒー豆の品質向上を支援し、生産者の収入改善につなげています。また、苗木やコーヒーの木を直射日光から守るシェードツリー（日陰樹）の寄贈を通じて、気候変動への適応と安定的な収穫量の確保を支援しています。

TOPICS

TAYLOR WINCH（TANZANIA）LTD.※からのコメント

寄贈いただいた乾燥台で処理されたコーヒー豆は品質が向上し、高値で取引されるため、農家の収入向上につながっています。また、気候変動の影響でタンザニアの気温は年々上昇しており、日陰樹はコーヒーの木を守るうえで今後ますます重要になると考えています。寄贈された苗木は病害虫に強い品種で、生産の安定性に大きく役立っています。さらに、継続的に苗木を供給いただけることで収穫量の維持が期待できます。2023年度に寄贈された苗木は順調に成長し、今年初めて収穫を迎える見込みです。こうした継続的な支援の成果が、少しずつ形になり始めています。

※VOLCAFE LTD.の子会社であるタンザニアにおけるトップクラスの輸出事業者

持続可能な調達

タンザニアにおける支援実績

	2023年度	2024年度	2025年度
アフリカンベッド	15台	15台	13台
コーヒー苗木	90,000本	110,743本	106,600本
シェードツリー苗木	97,000本	82,000本	82,000本



アフリカンベッド

教育支援プログラムを実施

グアテマラでは、収穫期に働く農家の子どもたちを対象とした教育支援プログラムを実施しています。子どもたちへ学習機会を提供し、基礎学力や読解力の向上を図るほか、安全な学習環境の確保、保護者向けの教育啓発活動などを通じて、地域の教育環境改善と児童労働防止を目指しています。

グアテマラにおける支援実績

	2023年度	2024年度	2025年度
学校数	7校	7校	7校
生徒数	116名	160名	177名
開設期間	35日間	35日間	35日間



教育支援プログラムを受ける生徒

農産物の調達

セブン-イレブン・ジャパンは、安全・安心で持続可能な商品を提供するため、セブン&アイ・ホールディングスの「持続可能な調達原則・方針」に基づき、農産物の調達を行っています。本方針は、法令遵守および国際規範の尊重を前提とし、人権の尊重、環境・生物多様性への配慮を重要な要素と位置づけ、サプライチェーン全体の持続可能な調達を支えています。農産物の調達においては、気候変動による収穫への影響、水資源・土壌への負荷、労働環境や人権に関する課題など、多様なリスクが存在します。当社はこれらを重要課題と認識し、持続可能な農業の推進に取り組んでいます。

環境に配慮した農業を支える持続可能な調達を推進

セブン-イレブン・ジャパンは、持続可能な調達活動の一環として、2025年度から農業分野のJ-クレジットを活用した生産者支援を開始しました。環境に配慮した農業を実践する生産者の取り組みを経済的価値につなげることで、持続可能な農業と食の未来の実現を目指しています。

本取り組みでは、水稲栽培における「中干し期間の延長」によって削減された温室効果ガス（メタン）の排出量を、国のJ-クレジット制度に基づき認証されたクレジットとして活用しています。水田から発生するメタンは農業分野における温室効果ガスの一つですが、中干し期間を適切に延長することによって排出量の削減が可能となります。当社は、生産者が創出したクレジットを購入することで、脱炭素社会の実現に貢献するとともに、生産者の新たな収入機会の創出を支援しています。

クレジットの活用によって得られる収益は、農業の担い手の確保や設備投資など、生産基盤の強化につながります。これにより、環境保全と経済性の両立を図りながら、農業の持続可能性の向上や将来の食料供給の安定化に貢献していきます。

なお、本取り組みは、農業由来カーボンクレジットの創出・普及を支援する株式会社フェイガーと連携して推進しています。日本の農業が直面する担い手不足、収益性の向上、気候変動への対応といった課題に対し、生産現場と協力しながら、環境に配慮した営農が適切に評価され、地域に還元される仕組みづくりを進めています。

当社は、今後も商品を支える原材料や農産物の生産現場

持続可能な調達

と連携し、環境負荷の低減と持続可能な調達の推進を通じて、循環型社会の実現に取り組んでいきます。

カカオ産地の持続可能な発展を支援

当社は、原材料の生産地が抱える社会課題の解決と持続可能な調達の実現に向けて、2023年からカカオ産地支援の取り組みを開始しました。対象となるチョコレート商品の売上の一部を、認定NPO法人ACE（エース）を通じてガーナのカカオ生産地域へ寄付し、農業技術の向上や教育環境の整備などに活用しています。

カカオの主要生産国であるガーナでは、児童労働や教育機会の不足、農家の収入向上などが課題となっています。ACEは現地で「スマイル・ガーナ プロジェクト」を推進し、地域住民による児童労働モニタリングの仕組みづくりや学校環境の改善、カカオ農家の生計向上支援などを実施しています。

このように当社は、商品を通じてお客様にも産地支援へ参加いただける仕組みを構築し、生産者と消費者をつなぐ取り組みを推進しています。今後も継続してカカオ産地支援を実施し、児童労働の撤廃に向けた持続可能なカカオ産業の実現に向けた活動を支援していきます。

ベジタブルプラント（植物工場）を活用

国産野菜は、生産者の減少や気候変動の影響により、安定的な生産と供給が難しくなっています。そこで当社は、品質・供給の両面で安定性に優れたベジタブルプラント（植物工場）で生産された野菜の活用と商品化を進めています。

ベジタブルプラントとは、衛生面や生産性が厳格に管理された屋内環境で野菜を栽培する施設です。その一例であるプライムデリカ株式会社が運営するベジタブルプラントでは、LED光制御技術を活用することで、露地栽培で約70日を要するリーフレタスの栽培日数を38日に短縮するとともに、露地栽培品の2～3倍のビタミンCを含有する栽培技術を確立。また、種まきから収穫までの全工程に自動化技術を導入し、生産プロセスの効率化も実現しています。さらに、ベジタブルプラントは隣接する惣菜製造工場と専用通路で連結されていることから、外気に触れることなく、安全・安心で新鮮な野菜を速やかに商品へと加工することができます。



プライムデリカ株式会社 相模原第二工場

プラントベースプロテインを活用

畜産業・水産業ともに持続的な食材供給が難しくなりつつあるなか、当社は、黄えんどう豆を原料とする発芽えんどう豆を主原料に用いた独自製法による代替食品を研究、開発に成功しています。その一つであるツナの代替食品は、通常のツナよりもCO_2排出量の削減に寄与します。今後も、安定供給の確保、環境負荷の低減、お客様に喜ばれる「おいしさ」を備えた商品を追求していきます。

畜産物の調達

セブン-イレブン・ジャパンは、セブン&アイ・ホールディングスの「持続可能な調達原則・方針」に基づき、環境負荷の低減と動物福祉（アニマルウェルフェア）※に配慮した畜産物の調達を推進しています。温室効果ガス排出、水資源への負荷、飼養環境、人権・労働環境など、畜産物調達に伴う多様な課題を重要課題と認識し、お取引先様との連携を通じて、サプライチェーン全体で持続可能な畜産の実現を目指しています。

※動物の生活とその死に関わる環境と、関連する動物の身体的・心的状態

アニマルウェルフェアが守られた畜産物を調達

セブン-イレブン・ジャパンは、動物福祉の観点を重視し、国際的に認知されている「動物の5つの自由」に配慮した飼養環境の確保を推進しています。この基本原則に基づく飼養管理が行われている畜産物の調達に努めるとともに、お取引先様と連携しながら適切な飼養管理の実践を働きかけています。

動物の5つの自由

① 飢え、渇きおよび栄養不良からの自由
② 恐怖および苦悩からの自由
③ 物理的、熱の不快さからの自由
④ 苦痛、傷害および疾病からの自由
⑤ 通常の行動様式を発現する自由

持続可能な調達

自然に近い環境での飼育に配慮

セブン-イレブンで販売する「ななチキ」と「揚げ鶏」に使用する鶏は、アニマルウェルフェアの考え方をふまえ、当社が求める飼養基準に基づき管理されています。温度・湿度を管理した飼育環境のもと、鶏が自由に動き回ることができるスペースを確保するなど、自然に近い環境での飼育に配慮しています。

鶏が自由に採食・行動できる環境を整え、本来の行動が発現できる飼養管理を行うとともに、個体ごとの健康状態の確認や衛生管理の徹底を通じて疾病の予防および早期対応に努めています。

また、養鶏場への入場管理および防疫対策を徹底し、外部からの疾病リスク低減を図っています。



鶏が自由に動き回ることのできる飼育環境

水産物の調達

世界的に水産資源の持続可能性が問われるなか、セブン-イレブン・ジャパンは、セブン&アイ・ホールディングスの「持続可能な調達原則・方針」に基づき、水産物の調達を推進しています。過剰漁獲による資源枯渇、違法・無報告・無規制（IUU）漁業、海洋環境への影響などの課題に対応するため、持続可能な水産資源の利用拡大やサプライチェーンの透明性向上に取り組むとともに、気候変動に対応した次世代水産資源の開発への参画を進めています。

認証水産物を活用（アラスカシーフード）

セブン-イレブン・ジャパンは、水産資源の持続可能な利用に向け、認証済み原材料の活用を推進しています。手巻おにぎりの具材である「辛子明太子」に使用する水産原材料については、2022年から全量をアラスカシーフードへ切り替えました。生態系への影響低減および資源の持続可能性に配慮した漁業により漁獲された原材料を使用することで、環境に配慮した調達をさらに推進していきます。



アラスカシーフードを使用した商品

気候変動に対応した持続可能な水産資源を確保

当社は、気候変動による海水温の上昇など、水産資源を取り巻く環境変化への対応を重要な課題と認識しています。

これら課題に対応するため、ゲノム編集技術などを活用した水産物の品種改良に取り組むリージョナルフィッシュ株式会社へ出資し、次世代の持続可能な水産資源の開発に参画しています。同社は、高水温環境でも生育可能なサーモンやヒラメなどの開発を進めており、気候変動に強い水産資源の確保を目指しています。当社は、こうした取り組みを通じて、環境変化に適応した安定的な食材調達の実現を目指していきます。

パーム油の調達

セブン-イレブン・ジャパンは、安全・安心で持続可能な商品を提供するため、セブン&アイ・ホールディングスの「持続可能な調達原則・方針」に基づき、パーム油の調達を行っています。

パーム油は、食品分野で広く使用される重要な原材料である一方、その生産をめぐっては森林破壊や生物多様性の損失、人権問題などのリスクが指摘されています。当社はこれらを重要課題として認識し、持続可能なパーム油の調達に向けて、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）認証など国際的な認証制度に基づく原材料の利用拡大を進めています。

持続可能な調達

紙・パルプの調達

セブン-イレブン・ジャパンは、安全・安心で持続可能な商品およびサービスを提供するため、セブン＆アイ・ホールディングスの「持続可能な調達原則・方針」に基づき、紙・パルプ製品の調達を行っています。紙・パルプの原料となる木材は森林資源に依存しており、その調達過程では森林破壊や生物多様性の損失といった環境課題への影響が指摘されています。当社はこれらを重要課題として認識し、持続可能な森林資源の利用を推進するため、国際的な認証制度に基づく紙・パルプ製品の利用拡大を進めています。具体的には、店舗で提供する焼成パンやフライヤー商品の持ち帰り用紙袋に、環境に配慮した紙を使用しています。

今後も認証製品の利用範囲を拡大することで、持続可能な森林資源の活用に貢献していきます。